

ゴールデンウィーク前半 立山春スキー会山行 山崎カール報告書

日 時 2019(平成 31 年)4 月 28(日)
メンバー 内田・中村
行 程 雷鳥沢テント場 ～ 山崎カールのローソク岩の少し上まで 往復
(神戸発 4/27 夜 雷鳥沢でテント 2 泊泊 4/29 帰神)



虹がかかる中、山崎カールを目指す。



山崎カールの半分ぐらいまで来たところ。ここまで、ジャケットやオーバー手袋、ヘルメットを着けていたためか、日照もあり気温の上昇に対して、少々体温放熱ができず、熱中症気味であったが、この辺から薄着にし、元気回復できた。





やっと、ローソク岩に到着。雄山山頂は無理でも、もう少し、上部を目指すが、全体が融解凍結層の氷板の上に新雪が5~10cm程度載っている状態で、かなり登りにくい。実際の斜度は、写真で感じる以上に強い。

ローソク岩手前から、クトーなしでは滑り始めたので、クトーを付ける。板を流さないように気を遣う。片方ずつ靴から外し、クトーを付ける。氷盤なので、ブーツアイゼン無しのツボ足状態で立つことが困難で、片方のスキー板に乗っていないと立つことができない。結果論だが、もう少し早くクトーを付けておけば安全だったと反省する。

ローソク岩よりさらに高いところを目指す。斜面の状態は、完全なアイスバーンというか氷盤に約5cm程度の新雪が載っている状態で、クトーの爪が氷盤に刺さっていないと擦り落ちそうな状態。途中でのキックターンも気を遣う。



ローソク岩より高い斜め位置からローソク岩を見ると、意外と先端は尖っている。ローソク岩上部の斜度は40度近いと思う。





2人が板を外してシールをはがせる程度の小さな棚のようなところがあったので、登りはここまでとして滑降の準備をした。

社務所横からのドロップインする斜面は、雪はついておらず、急斜面の縦溝のある完璧なアイスバーンで、上部からのスキー滑降者を見たが、横滑りのガリガリ音が響いた。また、ボーダーは、上部アイスバーンで転倒し、そのまま止まることなくローソク岩ぐらいの高さで止まった。ゴーグルと思われるものはそのはるか先で止まった。写真参照。

今回は、中村の体調不良もあり、山崎カールの基部から登り詰めることとしたが、雄山上部からの滑降にしなくて正解であった。



社務所直下の急斜面は、縦溝のアイスバーンとなっている。このため、上部で転倒し、ローソク岩の標高まで止まらずに滑落するボーダーを右手に見る。ゴーグルはかなり下に流れたが、滑落者からは幸いにも「大丈夫」との返答を受ける。













190428 立山

日付と場所 Date & Location



標高 Elevation	2270m~2780m
気温 Temp.	-7.4(0530hrs / 2380m) ~ 0.8(1210hrs / 2780m)
天気 Sky	OVC 雲量10(薄曇り)
風 Wind	風速 Wind Speed : L 1-7m/s 風向 Wind Direction : SW 風コメント Wind Comments : 0740hrsごろまではM-NEだった。同時刻までは稜線や支尾根で飛雪N-M。
降水 Precipitation	降水の種類 Precip. Type : Nil なし 降水の強度 Precip. Rate : 降水コメント Precip. Comments :
雪崩などの観察 Avalanche Observations	奥大日岳稜線直下カガミ谷E面の急斜面にて、昨日のストーム中と思われる雪崩跡(破断面は確認できず),L500m程度,size1.5を確認。
雪崩発生有無 Avalanche Activities_Yes or No	No
積雪構造 Snowpack	0427MFcrに27日のストームによる新雪が0~55cm載る。HSTには多様性があり、雷鳥荘2380m付近でHST20cm,剣御前付近2765mで55cmでFP30cm。HST内の温度勾配は大きい、硬度は概ねP。スキーカットに反応無し。午後、日照面は標高2700m付近でモイストだった。
Spin No	
コメント Comments	スキーが走り快適な滑走が楽しめたが、昇温により午後は早めに切り上げました。天気が良かったので、広い範囲で滑走跡多数。

立山室堂 山岳スキー情報

立山 なだれ情報

雪情報 - 4月28日(日) 8時現在

なだれに注意
危険な状態
伊達にも凍結は注意
行動の自覚を要す

日付	2019/4/28	時間	8:31 AM	場所	-
天候	晴れ	気温	-6℃	風向き	-
風速	微風m	24h降雪	30cm	積雪深	570cm
視界	良好				

昨日から今日にかけて、室堂平で約30cmの積雪がありました。吹き溜まりではさらに多くの積雪が見込まれます。新雪の表層雪崩に、厳重に警戒して下さい。
 また、稜線は硬く凍結しています。登山の際は、アイゼン、ピッケルなどを確実に使用して下さい。